

阿寒湖温泉における地域活性化の取組みについて（報告） （第 1 回自立地域社会専門委員会（11 月 3 日））

1．取組みの概要

- 阿寒湖温泉では、観光客、特に団体客の激減、外国人客の増加、空店舗の増加などによる危機感から、2000 年から（財）日本交通公社と協働し、住民によるまちづくりの動きが活発化。
- まちづくりの推進組織としてまちづくり協議会を作るとともに（2001 年）、阿寒湖温泉再生プランを策定してまちづくりのバイブルとした（2002 年）。
- 再生プランでは、滞在時間の延伸を目指して重点プロジェクトを定め、財源に乏しい中で実現を図るため、国や道のモデル事業（国土交通省の観光まちづくり支援事業、道庁のキャンプ場の整備等）、社会実験（オープンカフェ、パークアンドライド等）などを導入。
- 女性による団体「まりも倶楽部」が、「花いっぱい運動」や手作りのガイドマップの作成、ザリガニや鹿肉など地元ならではの食材を用いた料理の研究などの活動。
- 宿泊者の「囲い込み」を防ぎ、まちなか（商店街）に出てもらうため、特典のある「まりも家族手形」を配布するなどの試みを実施。
- 他にもマーケティング、湖畔の公園化、足湯の整備、駐車事情改善策などを継続的に実施。2004 年には観光協会・まちづくり協議会を合併して NPO 法人とするとともに、2005 年度から第 2 期計画による更なる取組みを実施中。

2．取組みの特徴

多様な主体の参画、住民参加

- 再生プランの策定に当たって住民説明会を熱心開催。
- 花の植栽、まりも家族手形、ワークショップ等、誰もが参加できる小イベントを実施。一方で氷上まつりなどロングランのイベントを通じて連携を強化。
- 行政との連携を通じて財源・協働を確保。まりも倶楽部など民間の活動との連携。

まちづくりに多くの「応援団」

情報公開

- ニュースレターの全戸配布を通じて広く情報提供。

地元民間主体の組織化、推進組織

- 地元の横断的組織としてまちづくり協会を組織。コアとなるメンバーの存在が重要。

- 「花いっぱい運動」など、できることから順次取組み。
- さらに運営基盤を明確にして信用を得るため、観光協会と合併して NPO 法人化。
- 「まりも倶楽部」は、参加女性の出産、子育て、介護の事情を考慮し、できる範囲での参加ができる環境づくり。

恵まれた人材

- 対外アピール：観光カリスマ
- 地元取りまとめ：人格者
- 事務局：人柄と事務処理能力 + 行政 + 女性

地域外の視点

- 外部による埋もれていた地域資源の発掘、きっかけ作り
 ……（財）日本交通公社が発掘・全体プロデュース、まりも倶楽部の移住者メンバーによる地域資源発掘など
- ワークショップ開催による外部の視点（学者、行政等）の吸収
- 地域が外部の意見を素直に取り入れたことも一つのポイント

3. 今後の課題

多様化、広域連携と地域のブランド化

2泊以上の観光客の増加に向けて、食材の多様化が必要。釧路の魚、旧阿寒町産の野菜を提供するなど。さらに、東北北海道の視点で、大雪・釧路湿原・知床等との連携も今後の検討事項。

活動資金の確保

行政の補助に頼ることには限界。NPO 法人は指定管理者としての受託も意識。

人材の確保

NPO 法人は専任 1 名のみ。今後いかに人材を阿寒に誘致していくかが課題。外国人観光客を呼ぶために語学ができる人材の確保も重要。

定住の促進

跡継ぎだけでなく、2 人目が住めるように。職業、住居、病院の確保など。